

# 慶應関連サブスペ連動型外科専門医研修プログラム施設紹介

## 基幹施設

### 【慶應義塾大学病院】



### ■一般・消化器外科

(<http://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/general-surgery/>)

【上部消化管班】：<http://www.surgery-med-keio.jp/joubushoukakan/>

1. 診療内容：胃・食道のすべての疾患を対象として検査、手術（胸腔鏡・腹腔鏡手術）、内視鏡治療（ESD）、放射線治療、化学療法、緩和支援療法を行っており、すべての修練を行えます。
2. 対象疾患：胃癌，食道癌，食道胃接合部癌，胃粘膜下腫瘍(GIST)，食道粘膜下腫瘍，難治性胃・十二指腸潰瘍，食道アカラシア，食道胃逆流症，食道裂孔ヘルニア，食道憩室，特発性食道破裂など
3. 特徴：胃・食道疾患に対して標準治療を画一的に施行するのではなく、大学病院ならではの「プラスα」を求めたより良い医療を提供できるように、現在胸腔鏡・腹腔鏡手術による低侵襲治療とセンチネルリンパ節生検による機能温存縮小手術，頭頸部領域も含めた上部消化管内視鏡診断と治療、進行癌に対する集学的治療や免疫療法等の先進的医療に積極的に取り組んでいます。
4. 実績：年間食道癌切除例約 50 例，胃癌手術例約 150 例（うち腹腔鏡手術約 90 例），内視鏡的切除(EMR/ESD)年間約 200 例。
5. 専門医としての目標（資格）：外科専門医、消化器外科専門医、学位（医学博士）、食道外科専門医、内視鏡外科技術認定医、がん治療認定医

【大腸班】：<http://www.keio-colorectalsurgery.com/>

われわれは、日本で最初に腹腔鏡下大腸切除術を行った施設であり、歴史と伝統に基づく研修プログラムを有しています。腸疾患には悪性腫瘍だけでなく炎症性腸疾患・肛門疾患などの良性疾患も含まれるため、多くの疾患に対する深い造詣が要求されます。われわれは、診断から治療まで一貫して行うことができる外科医の育成を目指しています。手術はもちろんのこと大腸内視鏡検査や各種薬物療法にも積極的に取り組み、集学的治療において中心的役割を果たすことができるようにトレーニングを行います。また、次世代を担う世界をリードできる外科医を育成するために、新しい技術の導入・開発にも積極的に取り組んでおり、従来の手法にとらわれない新しい発想を活かした技術を学び、世界へ発信していく機会も多くあります。本研修プログラムを修了することで、消化器外科専門医さらに内視鏡外科技術認定医・大腸肛門病専門医取得に必要な修練を積むことができます。

**【肝胆膵・移植班】**：<http://www.keio-hpbts.jp/index.html>

肝胆膵・移植班は肝門部胆管癌に対して世界に先駆けて肝切除や血管合併切除を行い、黎明期を切り拓いてきました。同じく難治癌である膵癌に対してもいち早く術前化学放射線療法を導入し、さらに慶應独自の術後門注化学療法を加えることで、目覚ましく予後が改善しつつあります。本邦における腹腔鏡下胆嚢摘出術・肝切除術の導入・普及で決定的な役割を果たしてきたほか、肝細胞癌に対する局所治療としては凍結融解療法を日本で初めて導入し、その有効性を証明しました。移植領域においては禁忌とされた ABO 血液型不適合生体肝移植に対し世界で初めて移植後に門注療法を用いることで、パラダイムシフトを起こしました。

歴史的にも我々は創造性を豊かに育んできましたが、現在は肝胆膵領域のあらゆる疾患に対して、外科に加えて内科、放射線科が集う「肝胆膵クラスター」で自由闊達に協議し、最適の治療方法で臨む「全方位戦略」を診療の根幹としています。原発性・転移性肝腫瘍、胆道腫瘍、膵腫瘍いずれにおいても常に集学的治療を念頭に置きつつ、積極的に腹腔鏡下手術を取り入れ、また症例に応じて血管合併切除を含む拡大手術を多く行っています。非代償性肝硬変や急性肝不全に対しては生体・脳死肝移植を日本の主要施設のひとつとして手がけています。診断・治療に難渋した症例は外科・内科・放射線科に加え病理学教室の肝胆膵グループと共に肝胆膵合同カンファレンスで詳しく検討して肝胆膵領域の診療体系全体の水準の向上を図っております。この体制の下、日本・世界を先導する次の世代を担う意欲的な外科医を育成すべく、プログラムを構築してあります。

**【乳腺班】**：<http://www.surgery-med-keio.jp/breast/>

大教室制の利点を生かした、乳腺外科研修プログラムの特徴は、外科全般の手術・周術期管理の経験により外科専門医を最短で取得し、これに平行して乳癌診療の幅広い知識・技術の習得を行い、速やかに乳腺専門医を取得可能であることです。実際の研修では、病棟において乳癌手術を中心に手術手技や周術期管理の修練を行いますが、外来診療においては診察の手順や検査手技（画像診断・マンモトーム生検など）を学びます。また、乳癌の化学療法は当科で担当しているため、薬物療法の適応の検討や実施など、乳腺腫瘍内科的な考え方を同時に習得していくことが可能です。研究活動では、乳癌に関する本邦の基礎・臨床研究を牽引する実績を有し、最先端の研究環境で医学博士号の取得を目指すことが可能です。女性乳腺外科医の増加に伴い、当科では研修中の妊娠・出産に対する配慮が充実しており、これらは他の施設よりも多くの人員を擁する慶大外科の利点であると考えています。

**【血管班】**：<http://www.keio-vascularsurgery.com/>

一般・消化器外科血管班は、黎明期より本邦における血管外科診療を牽引してまいりました。閉塞性動脈硬化症、重症虚血肢、腹部大動脈瘤、腹部内臓動脈瘤、下肢静脈瘤、内シャント造設、さらに生体肝移植における血行再建にいたるまで、幅広く脈管疾患に対応しております。外科手術では人工血管置換術から Distal bypass 術まで、カテーテル治療ではステントグラフト治療から下腿への血管内治療まで、さらに顕微鏡下手術も手掛けております。また血管再生治療や生体吸収性ステントなどの臨床試験や、イノベーションな基礎研究にも積極的に取り組んでおります。主要関連施設における血管外科手術症例数は計 3000 例/年に及び、経験豊富な指導医のもとで、専攻医が十分な血管外科手術経験を積むことが可能です。心臓血管外科専門医の取得のみならず、Open surgery から Endovascular surgery まで、血管外科のすべてを習得し、自立した血管外科医を養成するプログラムを準備しております。

**■小児外科**：<http://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/pedisur/> 又は <http://www.ped-surg.med.keio.ac.jp/>

小児外科では小児の呼吸器及び消化器・一般外科領域疾患を幅広く診療します。

慶應小児外科は慶應周産期・小児医療センターの中核科として、多くの先天異常、小児がん、小児救急そして肝・小腸移植医療、胎児治療からライフサイクル全体をカバーする成育医療につき小児病院と同等以上の医療を実践しています。ヒルシュスプルング病手術や小児内視鏡手術、小児肝移植・小腸移植医療など多岐にわたって、常に我が国の小

児外科をリードしてきた歴史を持ち、基礎から最先端の医療を実践し、また発展させる場として最高の環境を有しています。多くの小児病院や大学病院のリーダーとなる小児外科医を輩出しており、その関連施設とは常に技術を競い一つ密接に連携しています。

小児外科プログラムでは、このような環境下で最も効率良く専門医・指導医へ向けた修練と小児外科疾患に対する最先端の研究の経験を積むことが出来ます。そして、最終的に世界で活躍し世に大きく貢献する小児外科医を養成することがプログラムの目標です。

■心臓血管外科：<http://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/cardiova/>

又は <https://www.keio-cardiovascular-surgery.com/>

慶應義塾大学心臓血管外科は年間 250 例以上の開心術の他に胸部・腹部大動脈ステントグラフトや経カテーテル大動脈弁留置なども含めると年間 450 例の手術症例を有し、全国でも有数の心臓血管外科施設です。弁膜疾患、冠動脈疾患、大動脈疾患、先天性心疾患の各分野の手術を満遍なく施行している中でも、特に、低侵襲心臓血管治療を特色としており、小切開心臓手術、大動脈ステントグラフト、経カテーテル大動脈弁留置などを積極的に行っている点が大きな特徴です。心臓血管外科における修練では、低侵襲心臓血管治療を含めた各種心臓血管手術に多数参加し、手術に関する研鑽を積むほか、高度に発展している心臓血管外科手術の周術期管理や、呼吸循環器集中管理についての知識、経験を積むことができます。また循環器疾患の病態生理についての理解を深めることも目標としています。

■呼吸器外科：<http://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/thoracic/>

又は <http://plaza.umin.ac.jp/~thorkeio/index.html>

呼吸器外科は、肺癌の診断と治療において我が国で有数の高い水準と症例数を誇っています。肺癌を中心に、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、悪性胸膜中皮腫等の悪性疾患のほか、気胸、非定型抗酸菌症、膿胸、胸部外傷、漏斗胸などに対し、年間 300 例以上の手術を行っています。治療対象となる疾患は多種多様で、あらゆる胸部外科手術の修練が可能です。外科専門医を目指すにあたり、救急医療の基本である A(airway)B(breathing)C(circulation)の中でも、特に AB を当科で身につけることで一般外科医としての基本的な素養が身につく、どのような診療科で働く際にも役立ちます。私達は、世界で活躍出来る臨床能力および医学的知識を有する呼吸器外科医を育成することを目標としています。自由闊達な議論ができる開放的な教室ですので、出身校や性別に関わりなく、共に良い仕事をしたいと思っております。